

# ふくしまグリーン復興構想(第2期) (概要案)

福島県・環境省  
令和7年12月



## 背景・目的

- 東日本大震災<sup>※1</sup>の影響により自然公園利用者数が減少。
- 自然環境の保全と調和を図りながら適正な利用を促進し、交流人口の拡大を目指すため、平成31年にふくしまグリーン復興構想を策定。
- 新型コロナウイルス感染症の影響もあり、国立公園・国定公園の利用者数は目標には届いていない。

※1 東北地方太平洋沖地震とそれに伴って発生した大津波及び東京電力福島第一原子力発電所事故による災害。

## 自然公園を取り巻く環境

- 2050年カーボンニュートラルに向けた動き
- 国際的なネイチャーポジティブ・30by30の動き
- 多様な主体によるトレイルルートの開通
- 全国的なインバウンド観光客の増加

## ふくしまグリーン復興構想のこれまでの取組

国立公園・国定公園の利用者数が震災前を上回ることを目指し(R7目標値 700万人)、3つの柱に沿って取組を実施した。

### 【柱1 国立公園・国定公園の魅力向上】

利用拠点の整備、充実 ビジターセンターの再整備 歩道や野営場、園地等の整備	インバウンド対策 多言語解説標識整備 尾瀬沼公衆トイレの洋式化	景観の改善 通景伐採の実施 猪苗代湖グリーンアクションの実施
エコツーリズムの推進 ふくしま子ども自然環境学習の実施 自然ガイド育成研修会の開催	自然環境の保全 植生復元調査、外来生物の防除 野生鳥獣対策の実施	二次交通の検討 レンタサイクルの設置

### 【柱2 環境変化を踏まえた県立自然公園の見直し】

- R3. 10. 29 只見柳津県立自然公園が越後三山只見国定公園へ編入
- R6. 7. 6 越後三山只見国定公園奥会津ビジターセンター開所

### 【柱3 国立公園・国定公園を中心に福島県内を広く周遊する仕組みづくり】

- 会津トレイル等の周遊ルートの設定
- 絶景巡礼・ふくしまビューポイント50等の周遊促進の仕組みづくり
- FS調査による多様な移動手段の検討

## ○ 目標の達成状況

国立公園・国定公園利用者数  
R6年度 619万人

新型コロナウイルス感染症の落ち着きとともに  
利用者数は回復傾向にあるものの、目標には届かず

## 課題

- 着実に取組を推進してきたものの、自然公園利用者数はいまだ震災以前まで回復していない
- 福島県内の他の自然公園へ取組の水平展開ができていない
- 自然公園の認知度が不十分
- 利用者満足度の低下につながる課題が山積している
- 世界的なネイチャーポジティブや脱炭素に向けた動き、全国的なインバウンドの増加など取り巻く環境の変化への対応が必要

課題の解決に向けた情報発信や各種対策など、更なる取組の強化が必要。

## 目指す姿

- 豊かで多様性ある自然環境を適切に保全するとともに、美しいふくしまの自然との関わりを通して自然保護意識の醸成を図り、自然の恵みを次世代へつなげる。
- 個々の自然公園の魅力を磨き上げ、広域的に周遊する仕組みづくりなどにより、自然公園利用者数の回復と交流人口の拡大、さらには地域経済の活性化を図り、福島県全体の復興に寄与する。

## 第2期の基本方針

### 【第2期の基本方針】

自然保護意識の醸成と自然環境の保全への取組を加速させるとともに(まもり、未来へつなぐ)、更に多くの人に愛され、利用される自然公園としていくために地域と一体となって滞在環境の上質化を図る(みがき、未来へつなぐ)。

### 【コンセプト】

まもり、みがき、未来へつなぐ。至福のふくしま

※継続

### 【対象エリア】 福島県全域

## 数値目標

指標名	現状(R6)	目標(R12年度)
県土における保護地域及びOECM <sup>※2</sup> の占める割合	28.8%	30.0%以上
自然公園利用者数 <sup>※3</sup>	1,016万人	1,064万人
磐梯朝日国立公園 訪問中の満足度	72.8%	80%以上
日頃、省エネルギーや地球温暖化防止を意識した取組を行っているかと回答した県民の割合(意識調査)	48.8%	73%以上

※2 OECM(Other Effective area-based Conservation Measures)とは、自然公園等の保護区以外に、目的に関係なく、民間等の取組により生物多様性保全に貢献している地域のこと。

※3 【補完指標】 自然公園利用者との関連が高い地点の観光客入込数の1割増

## 2つの柱と具体的取組

### 柱1

#### 自然環境の保全と自然保護意識の醸成

保護地域及びOECMの面積を確保していくなど、カーボンニュートラルの視点も取り入れながら自然環境の保全・再生に継続して取り組み、**ネイチャーポジティブの実現**を目指す。

「山の日」全国大会の本県開催に向けた調整等、美しいふくしまの自然との関わりを通して自然保護意識の醸成を図り、自然の恵みを次世代へつなげる。

- 自然環境の保全と再生・脱炭素化
  - ・越後三山只見国定公園の拡張
  - ・自然共生サイト認定数の増加に向けた情報発信、支援体制の構築
  - ・鳥獣対策や水環境保全等の自然環境の保全
  - ・脱炭素に向けた取組の強化
- 自然保護意識の醸成
  - ・「山の日」全国大会の本県開催
  - ・国立公園の周年イベントの開催
  - ・環境学習・エコツーリズムの推進

#### 効果的な実施に向けた情報発信・プロモーション

- ホームページ・SNS等の活用
- インバウンドに対応したプロモーション活動など

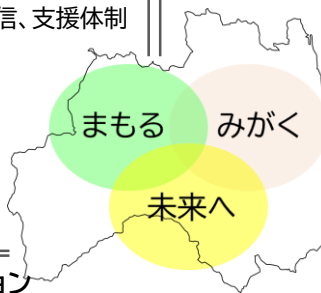
### 柱2

#### 自然公園の滞在環境等の上質化

地域と一体となって自然公園の魅力・ストーリーを磨き上げ、来訪者へ優れた自然の中で心と体を満たす癒やしのひとときと上質な体験の提供による滞在の満足度を向上させる。

みちのく潮風トレイルとふくしま浜街道トレイルの連携等ロングトレイルの活用推進によるリピーターの増、新規層(インバウンド含む)の獲得、滞在期間・頻度の増を目指す。

- ・自然公園の魅力・ストーリーの磨き上げ
- ・周遊促進の仕組みづくり
- ・「山の日」全国大会を契機とした自然公園の利用促進
- ・ロングトレイルの活用推進
- ・体験コンテンツの充実
- ・利用拠点の整備・充実
- ・景観の改善
- ・インバウンド及びオーバーツーリズム対策
- ・多様な移動手段及び長期滞在利用の検討
- ・官民連携による保全と利用の好循環の創出



○国や関係自治体等と連携した情報発信